

令和2年度 学校評価報告書【国立市立国立第一中学校】

<p>学校教育目標</p> <p>「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。 1 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 2 豊かな創造性を養おう。 3 思いやる心をもとう。 4 健康な心身をつくらう。</p>	<p>重点目標</p> <p>共生社会実現に向けた「共学」「共感」「共有」による学舎の創造 ～チーム国中～ 1 確かな学力の向上 共に学ぶ「共学」 2 心の教育の充実 自他を大切に「共感」 3 特別活動の充実 共に育つ「共有」</p>
---	--

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価		
					中間評価	最終評価					
確かな学力の向上	③②① 研→基礎 修→体的 等による 学的知識 ・技能 ・能力の 向上 (コロナ 対策を 含む)	を教 深員 め全 体 教で 科 特 性 を ナ 生 対 か 策 を 含 め た 実 践 を し て い く。	① 学習から活用する活動をつくる(増やす)。 (1) 学習内容をアウトプットとする機会をもつ。 具体的には、小テストや演習の時間をもつ。 (2) ねらい・学習内容を説明する機会をもつ。 具体的には、グループでの検討、全体共有の時間をもつ。 今年度に関しては、グループでの検討が、密を避ける視点からも実施困難であるため、ICT機器の活用や、プリントへの記入等を行うことで情報共有を図る。 (3) 学習内容を深化する機会をもつ。 具体的には、問題の応用や発表の時間をもつ。	I 生徒の授業評価アンケート「よい態度で授業を受けた」「授業のねらい・内容が理解できた」の「とてもそう思う」と「そう思う」の割合合計を85%以上にする。 II 上記の質問項目において、すべての教員の「とてもそう思う」と「そう思う」の割合合計が70%以上にする。	B	B	全体としては「良い態度で授業を受けた」と肯定的な立場で回答した生徒は95%を超えており、「授業のねらい・内容が理解出来た」と解答した生徒も90%を超えていた。特に三学年では「授業のねらい・内容が理解出来た」という項目において、昨年よりも数値を向上させることができた。	・「良い態度で授業を受けた」「授業のねらい・内容が理解出来た」と解答した生徒は増加しているが、そうではない生徒も存在していることから、残りの生徒の実態を把握し、授業中のサポートなどの手立てを改めて考えていく必要がある。(具体的には、SSとの連携など) ・教員アンケートを今後実施していくことで、更なる改善策を作成していく。	・教員から授業準備に必要な時間が充分に取れないという意見があがっているため、原因は何かを分析し、改善を図っていく必要がある。 ・仕事分担の見直しや業務削減などで対応できるか、全校的な課題である。 ・新学習指導要領に対応するための指導内容や評価方法等について、今後も研究を重ねていく必要がある。		
			② 質の高い課題設定をする(課題の工夫) (1) 生徒から表出する課題の尊重。 (2) 追究したいと思える興味深い課題の工夫。 (3) 生活の実態で活用できる課題の設定。 ……主体的な学びを促す工夫を多く取り入れていく。	生徒の授業評価アンケート「授業がわかりやすい」と「意欲的に取り組むことのできる工夫がある」の「とてもそう思う」と「そう思う」の割合合計を80%以上にする。	B	B	全体としては「授業が分かりやすい」と肯定的な立場で回答した生徒は87.8%、また、「授業には意欲的に取り組むことのできる工夫がある」と解答した生徒は83.9%であった。 共に昨年の数値より1%ほど上昇している。	授業力向上の取り組みについて、教科間での話し合いや学年の中での話し合いを通して検討し、さらに高めていく必要があると考える。			
			③ 授業内容・授業形態を工夫する。 (1) 今ある状況の中で実践できる、他者との関わりをもつ活動や、課題解決を図ることのできる授業内容を検討していく。 (2) 授業内容と授業形態との結びつきを意識し、学習効果の高い授業を展開することで、授業への意欲を高める。 …校内研修を通して、教科の垣根を越えた授業研究を行う。	学期末の教員アンケートにおいて、「授業準備・教材開発はしっかりとできている」と「主体的・対話的・深い学びを実現する授業を行うことができている」の項目において、「とてもそう思う」、「そう思う」の割合が70%以上にする。	B	B	教員による学期末アンケートを今後実施予定	・教員アンケートを今後実施していくことで、更なる改善策を作成していく。			
心の教育の充実	いじめのない学校づくり	理 解 し め を 生 ま な い た め の 他 者	「共感する心」「温かい心」を育てる活動を行う。 ふれあい月間(6月、11月、2月)で「いじめに関するアンケート」を実施する。 スクールバディの活動として、月3回バディルームを開放して生徒同士が触れ合いながら、相談に乗る活動をする。また、ポスターや便りを発行して全校に呼びかける。 道徳でLGBT、しょうがい者、社会的弱者について考える授業を行い、お互いを認め合うことの大切さに気付かせる。	すべての教育活動をおとして「共感する心」「温かい心」を育てるように生徒と接する。 いじめアンケートや普段の学校生活で認知したいじめについて、組織的に早期対応し、100%解決を目指す。また、必要に応じていじめ対策委員会を開き解決していく。 月一回スクールバディの便りを発行する。 他者を理解する気持ちを育む道徳を行い、ワークシートで生徒が他者理解をする心がもてたかを見て取る。	B	B	・6月のいじめアンケートは、未実施で、11月は実施しました。各学年いじめはありますが、各学年の教員で対応し解決に至ってる件数が多い。 ・今年度スクールバディの活動は停止しています。(コロナの影響) ・道徳で社会的弱者について考える授業を行っているが、「共感する心」や「温かい心」をもちお互いに認めあうところまでは至っていない。	・いじめの早期発見にむけて、日々の観察をより注意深く行うことのでいじめにつながらないように事前に指導していく。 ・今後も継続して道徳の授業の中でお互いを認めよう活動を行っていく。	・SNSでのやり取りが原因でのいじめや友人関係のトラブルが多く見られたので、道徳の授業や学活の中でSNSの使い方の指導を徹底して行う必要がある。 ・LGBTや障がい者など社会的弱者に対して互いに認め合うような「共感する心」を育てる授業を充実させることが課題である。 ・主体的にボランティア活動に取り組めるような啓発活動を行う必要がある。		
			情報モラル教育の推進	のS 見N 直S しー 中 ル ー ル	昨年度実施したアンケートを基に生徒会でSNSルールについて検討し、全校で共有する。 全学年で、情報モラル教育SNSの使い方に関する道徳の授業を行う。 1年生においてSNS東京ノートを活用し、相手の気持ちを考えたコミュニケーションの仕方を学習する。	生徒会を中心として現状に合う提案をする。 中央委員会で議論をしっかりと検討する。 SNSルールを全校で共有し、SNS関連の生活指導を0(ゼロ)にする。	B	B	・生徒会を中心として中央委員会で約3か月間検討を重ね、12月に改正版のSNS一中ルールが完成した。	・ルールに合わせた使い方ができていか定期的に啓発していく必要がある。	
			のボ 推 進 テ ィ ア 活 動	のボ 活 ラ 性 化 テ ィ ア 体 験	校内美化活動(桜の掃除、秋の落ち葉掃除等)を生徒会を中心として企画し、生徒に自主的な活動を促す。 ボランティア体験の年間計画を立て、定期的に活動についての啓発方法を考える。 スペシャルプランナーを組織し、中心的存在としてボランティア活動を行う。また、全校への啓発を行う。	定期的にボランティア活動についての情報を発信し、参加してくれる生徒を増やす。 生徒会とスペシャルプランナーが互いに協力しボランティア活動を行う。	B	B	・生徒会を中心としてボランティアをつのり、一中花壇の花植え活動を実施した。目的意識をもって活動できていた。 ・一年生で学校周辺に球根を植えた。	・まだまだ教員主導の部分が大きいのでより主体的に取り組めるような事前の活動が必要である。	
特別活動の充実	生徒が主体となる学校行事	学 校 行 事 の 主 体 的 な 運 営	1年スキー教室において、3日間の学年集団生活の中で規律を学ぶ。 新たな出会いを生かし、友情の輪を広める。	行事アンケートで「生徒同士の中を深めることができた。」の回答をした生徒を全体の98%にする。			1月実施予定であるスキー教室は3月に延期となった。	スキー教室実施の日が近づいたら、再度指導しなおす。	スキー教室、校外学習ともに緊急事態宣言により中止となった。 来年度、新型コロナウイルス感染防止対策も考慮して学校行事の計画を立てていく。		
			2年校外学習において、班別活動の計画実施をする。 1人ひとつ係を担当し、自ら考え行動する。 公共交通機関を使用し、社会的ルールを守って行動する。	行事アンケートで「自分の担当の活動を責任もって行えた」の回答をした生徒を全体の98%にする。			12月実施予定であった2年校外学習は3月に延期となった。	校外学習に向けて、鎌倉について・コース等の事前学習をしなおす。			